

令和 7 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

都道府県名

長崎県

行事名称	対馬博物館消防訓練（文化財防火デー）
実施期間・日時	令和 8 年 1 月 2 9 日（木） 9 時 0 0 分～ 9 時 3 0 分
実施場所	対馬博物館（対馬市厳原町今屋敷 6 6 8 番地 2）
主催者	対馬市消防本部

■実施内容

訓練の想定

- ・対馬博物館 2 階機械室 2 で火災が発生。延焼防止を主眼とし、ポンプ車で出動する。

訓練の内容

- ・ 9 時 0 0 分 対馬博物館職員が火災を発見し、付近の消火器を用いて初期消火を試みる。
- ・ 9 時 0 5 分 初期消火では火の勢いが弱まらなかったため、博物館の事務所にいる職員が消防署に火災発生
の旨を通報する。同時に館内警報を鳴らし、来館者へ館外避難をアナウンスする。
- ・ 9 時 0 7 分 来館者の館外避難が完了。同時に重要文化財の館外に搬出する。
- ・ 9 時 1 0 分 ポンプ車が消防署から博物館北側に到着する。
- ・ 9 時 1 3 分 博物館北側にある貯水槽から補水態勢を取る。
- ・ 9 時 1 8 分 博物館北側入口から 2 階の火元を目がけて放水態勢を取る。
- ・ 9 時 3 0 分 訓練終了後、撤収。

参加者及び役割分担

- ・対馬市消防署職員 5 名 消防車両 1 台（ポンプ車）
- ・対馬市観光推進部博物館学芸課職員 3 名
- ・対馬市教育委員会文化財課職員 1 名（現場立会、記録撮影）

特に工夫した点

- ・昨年度と同様に、火災が発生し得る可能性が高い博物館北側を火元とした。
- ・対馬市内が湯水であるため、館内への放水は実施しなかったものの、館内までホースを伸ばし補水する態勢を
取り、実践を想定した訓練を行った。
- ・来館者が最も多く、職員の数が最も少ない祝祭日の出火を想定して訓練を実施した。

問題点・課題

訓練後、消防署から講評があり、以下の点が課題として指摘された。

- ・今回の訓練では、防火管理者が館内の避難誘導のアナウンスを実施していたが、どの職員でもアナウンスを
できるような体制づくりが必要。
- ・展示室は暗いため、暗所の中の避難誘導も想定しておく。トイレ等も同様に隅々まで入館者が残されて
いないか確認する。
- ・対馬博物館は防火対策が施され、火が広がりにくい（区画で火災が完結する）環境。初期消火が容易に
行えることも念頭に置いておくべき。
- ・火元等の確定のために、火災受信機のシステムを熟知しておく必要がある。特に対馬博物館の受信機は、最新
のものであり、どこで火災が発生したか、容易に知ることができる。
- ・可能であれば、来館者にタグを配布するなどして、来館者と職員とが分かりやすくしておく。

その他

- ・消防署との協議で、観光客増加によるタバコ等の不始末などにより、万松院（対馬市厳原町西里・対馬藩主
宗家墓所）での火災発生も考えられ得る、との指摘があったため、当該史跡での訓練実施も検討する。

訓練風景

別紙参照



職員による通報の様子



防火管理者による館外避難のアナウンス



重要文化財の搬出、及び来館者の館外への避難誘導



対馬博物館南西側（史跡金石城跡・櫓門側）
を通行するポンプ車



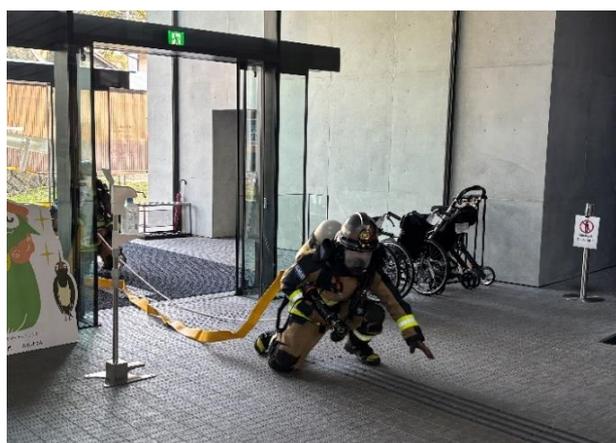
博物館北側の貯水槽の隣に駐車



貯水槽へ吸水管を伸ばす様子



ポンプ車からホースを運搬する様子



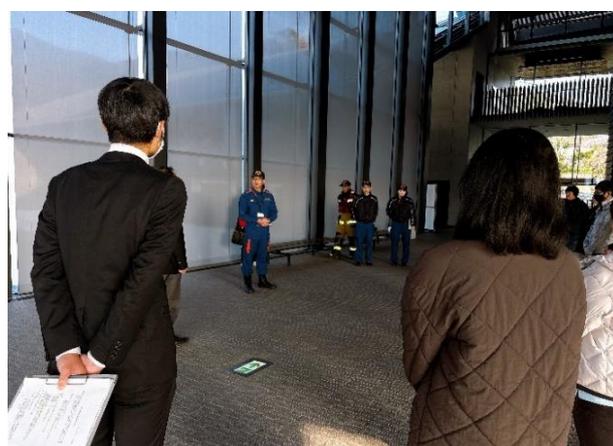
上部に滞留した煙を避けて
ホースを館内に入れる



放水の様子



訓練後、消防署長による講評の様子①



訓練後、消防署長による講評の様子②